



With STAR

スターと! vol.9

新しい「スターと!」は利用者様に対する当法人の取り組みや思いを紹介する情報紙です。
発行 2022/10/15 発行所 社会福祉法人みずき福祉会 町田福祉園 事業推進係

Chairman's Column 阿部 美樹雄 理事長のコラム

この10月より、理事長兼務としていた町田福祉園施設長を退任し、統括施設長（チェアマン）に就任し、文字通り法人全体の事業を統括して、利用者様の幸せを第一に考えた運営を進めてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願いいたします。コラムにつきましては、Chairman's Columnとして継続いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

私たちには、自ら考え必要に応じて行動を選択し、捉えなおしをして成果・結果につなげることができる、未来を創る能力、コンピテンシー(Competency)が必要です。

福祉の現場に必要な能力と言われて、まずイメージされるのは、社会福祉士や介護福祉士、精神保健福祉士などの国家資格のことです。これらは客観的であり、一定の知識やスキルを持っているものと評価できます。

学びを重ねて、資格試験の合格を勝ち取ってきたからです。

しかし、多様な人たちで成り立っている福祉の現場では、調整能力や協調性、交渉力など、テストでは測れない能力も必要となり、これらは実に大切なことです。

実際は、さらにこれらを行動に変え「見える化」し、手順書・行動基準として汎化させていきます。

挨拶・身だしなみ・ルールなどの基本動作は評価しやすいのですが、例えば、営業マンが契約の最終フェーズなのに、一日10件の顧客を訪れるという行動基準が設けられているとして、それに縛られていたら大切な契約が取れなくなります。

私たちには、自ら考え必要に応じて行動を選択し、捉えなおしをして成果・結果につなげることができる能力、成果・結果を出せる行動ができる能力、ということが必要となります。

このことをコンピテンシー (competency) と言います。

営業マンでは、成果・結果は「売り上げ」、福祉では「豊かさや幸せにつながる暮らしの提供」ということとなります。

コンピテンシーは行動指針となるだけではなく、未来を予測する材料になり得ます。

現在職員が、「このように考え判断してこのように行動した結果、このような結果が出た」という行動事実が、今後も同じように働いてくれれば同じような成果が期待できるというように、再現性の確立を上げることができます。

行動事実という根拠から未来を考えるという、ロジカルシンキングが可能となります。

コンピテンシーとは、能力の視点を変え、仕事の仕方を明確にします。

理事長 阿部 美樹雄

町田福祉園施設長（ゼネラルマネージャー）林 良介よりご挨拶



この10月から7年半ぶりに町田福祉園に出戻って参りました、林良介です。先日、久々に各棟にご挨拶に伺いました。私のことを覚えていて笑顔を見せてくれた方もいて、とても嬉しく思いました。さて、「会社経営は99パーセントがトップで決まる」という言葉があるほど、それだけトップの影響が大きいそうです。他にも「二代目が会社をつぶす」といわれることもあります。「人」「サービス」「お金」が全く変わっていないのに、たった一人トップの顔が変わっただけで業績が急上昇したり、逆に停滞することがあるそうです。施設長が交代して明るい雰囲気だった現場が急に暗くなったり、人間関係が良かったはずなのに派閥ができたりして急に働き難くなって欲しくありません。私自身のあり方が問われていると思っています。ご利用者やご縁のある方々の「安心」「幸せ」というキーワードは変わりませんが、施設長としてマネジメントするというよりは、「やる気になるように」様々な方法を考え支援をしていきたいと思っております。私もみんなと一緒に成長していきたいよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。